年度末報告書(実行団体用)

1年目 年度末報告書	
1. 事業名	自然と生きる若者集団プロジェクト
2. 実行団体名	特定非営利活動法人かしもむら
3. 実施期間	2020年4月~3月
4. 報告期間	2020年10月1日~2021年3月31日
5.事業進捗に関する報告(概要)	進捗状況
中長期アウトカム	
複数の地域と若者が連携し、都市部の大学生等の若者が中山間地域と関わ	
る機会を広げることによって、持続可能なコミュニティの維持と形成、森	
林の公益的機能の維持、さらには社会人としての人間力の向上に取り組む	
事業体として確立し、持続的な事業展開を行う。そのことによって、地域	
コミュニティの課題を解決するための包括的課題解決体制のモデルが普	
及し、知見・ノウハウの活用が進展することで、地域がより適切な課題解	
決を図ることができる社会になる。	
短期アウトカム	
1. 連携事業により、参加者(学生、若者) の広がりでき経験の共有化が促	
進される。	1. コロナ禍の影響により若者の往来・活動が制限され、計画より遅れている
2. 地域活動の成果が評価され、地域における新たな協働活動が芽生える	2. 地域と若者の新た関係性の構築が理解され、計画どおり進んでいる
3. 協議体の組織基盤が強化され、有効な課題解決活動が実施できる。	3. 協議体間の連携が促進され、計画どおり進んでいる
4. 自治体で協議体が実施した事業の活動の制度化がなされ事業の継続が	4. 事業展開中であり制度化には至っていないが、計画どおり進んでいる
実現する。	

アウトプット

- 1. 協議体として機能するため、課題実行団体が連携して事業を実施する。
- 2. 協議体構成団体の事業参加者がスキルアップし、地域の持続的発展に取り組む。
- 3. 協議体の組織基盤強化に取り組む
- 4. 事業の制度化を図り、他地域での事業展開に取り組む

- 1. 異なる団体間で課題を共有し連携が深まっており、計画どおり進んでいる
- 2. チームミーティング、セミナー参加、先進地視察を通じでスキルが向上し、計画 どおり進んでいる
- 3. 初年度は各団体の活動支援者の組織の強化を中心に行い、組織基盤強化に向け計画とおり進んでいる
- 4. 初年度でもあり事業の制度化には至っておらず、計画より遅れている

6.事業進捗に関する報告(詳細)

- 1-1. 課題実行団体である NPO 馬瀬川プロデュース、一般社団法人 aichikara、学生団体加子母木匠塾との連携を強化し、過疎地域が抱える様々な課題解決と、 若者たちが学びや体験を通じて効果的に課題解決が図れるよう調整を行った。
- 1-2. 協議体構成団体の活動に対し理解と協力を得るため、7月3日に下呂市馬瀬振興事務所において、事業概要についての地域説明会を実施し、以後自治体や地域団体との調整を行い、3月19日には地元関係者との座談会を実施した。
- 2-1. 地域と若者が交流し人材を育むプログラムを実践するため、12月1日に地域ファンクラブ等先進的に取り組まれている飛騨市への視察研修を行った。
- 2-2. 馬瀬地域での展開については、下呂市馬瀬振興事務所や区長会の理解のもと、南飛騨馬瀬観光協会の協力により、学生や若者たちの地域資源調査やフィールドワークのプログラム構築に関し支援をしていただけることになり、学生向けにオンラインでのセミナーを実施した。
- 2-3. コロナ禍の影響により多くの学生たちの往来が困難であったが、加子母地域で先行して開設した地元特産品や情報発信サイト「カシモール」の開設に参画し、地域の特産品や体験プログラムの企画に取り組み、今後のコラボレーションに期待が生まれた。
- 3-1. 過疎地域と都市部の若者たちの持つ課題、利点を生かしながら、関係性を構築していく基礎固めを行いながら、持続的な運営を行っていける協議体づくりに取り組んでいきたい。
- 3-2. そのためには、地域への愛着を育むことが必要であり、WEB サイトや SNS 等を利用して情報発信を行いながら、現役学生のみならず加子母木匠塾 OB や aichikara の活動支援者を取り込みながら活動支援者としてのファンを拡大していくことに努めた。
- 4-1. 当プロジェクトに参加する大学のみでなく、他にも関心を示してくれている大学もあり、今後は幅広い分野での学生たちを取り込んでいける可能性があり、引き続き行政や大学等への働きかけを行いながら事業を推進していきたい。
- 4-2. コロナ禍の影響もあり、地域間での往来が制限されているが、開放的な自然環境でのワーケーションなども注目されており、コロナ後のライフスタイルの提案を見据えながら、事業成果を明らかにし他地域への展開を図っていきたい。

7.資金計画に関する報告

- ① 資金計画どおりの執行状況ですか。 : 計画より遅れている
- →①で「計画どおり進んでいる」以外を選択した場合の理由:
 - コロナ禍の影響により、当初計画していた規模での若者(学生)たちの往来が制限されたため、予定していた経費が縮小された。
- ② 報告年度に用意する予定だった自己資金は集めることができましたか。: 計画どおり進んでいる
- →②で「計画より遅れている」を選択した場合の理由:

8.報告期間における課題と次年度にむけた取り組み

事業開始当初から新型コロナウィルス感染防止のため、緊急事態宣言の発令や地域間の往来や大学内での課外活動までもが制限されたため、意欲をもった学生が多くいたにもかかわらず、プロジェクトへの参画を制限せざるを得ない状況であった。そのため各団体のコアメンバーが中心となって、ただ、学生たちの意欲・関心は高まっていることから、感染防止対策を徹底し、オンラインでの手法等を検討しながらプログラムを構築する必要がある。

9.広報に関する報告

- ・メディア掲載(TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等): 2020.5.18「買い物弱者対策 コロナ禍で強み」岐阜新聞 ※PDF 添付 2021.3.24「村を挙げてネットモール開設」中部経済新聞 ※PDF 添付
- ・広報制作物等:該当になし
- ・報告書等:該当なし

10.規定類の整備に関する報告

- ① 事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。: 完了
- ② 整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。: 一部未公開
- ③ →②で「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日:R3.6 月予定
- ④ 変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。: はい / いいえ
- →③で「いいえ」を選択した場合の理由:変更なし

11.ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

- ① 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。: はい/いいえ
- →①で「いいえ」を選択した場合の理由:
- ② 内部通報制度は整備されていますか。: はい / いいえ
- →②で「はい」の場合は、設置方法(複数選択可): 内部に窓口を設置 /外部に窓口を設置 /JANPIA の窓口を利用
- ③ 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。: はい / いいえ
- →③で「いいえ」を選択した場合の理由:
- ④ 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。: はい / いいえ
- →④で「いいえ」を選択した場合の理由:
- ⑤ コンプライアンス委員会(※) は定期的に開催されていますか。: はい / いいえ
- ※コンプライアンス委員会を設置していない実行団体は、担当部署または担当者に報告の対象となる不正行為を資金分配団体に報告済かを回答してください。

報告の対象となる不正行為とは、資金分配団体-実行団体間の資金提供契約書第15条に定めるものです。

- →⑤で「いいえ」を選択した場合の理由:定例の理事会にて確認
- ⑥ 報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。(実施済みの場合含む): 内部監査を実施/外部監査を実施/実施する予定がない
- →⑥で「実施する予定がない」を選択した場合の理由:

13.活動の写真



馬瀬地区区長会にて事業説明会



外部コンサルタントを交え自治体ヒアリング



大学生を対象にした馬瀬地域セミナー